

平成30年度の当学会の活動の充実強化にあたり、会長としての挨拶を申し上げます。
当学会は14年前の平成16年4月、我々の生活の原点である地域社会のマネジメントについて、次のような新たな学問体系の構築と実践を目指し、大学等の研究者、行政や司法の関係者、事業者等の実務的な活動者、有識者等の幅広い期待を担い設立されました。



- ① 都市・地域・地区（以下「地域」という。）を形成するハードとソフトの資産体系の適切な経営管理に関し、国際的な視野のもと幅広い学問的、科学的、実務的な調査研究を行う
- ② これらの分野に携わる大学などの研究者、企業・行政関係者、有識者、有資格者等による研究成果の発表と相互交流を行う
- ③ ストック時代における地域資産の適正かつ有効な利活用を図り、防災防犯、情報システム、環境、福祉、伝統文化の承継等の諸問題についての課題を整理する
- ④ 地域資産に係る関係の有資格者等の資質の向上と育成に寄与する
- ⑤ 地域の経営管理に係る総合的な学問体系の確立、発展を期する

そして、その実践のため毎年、講演やシンポジウム、学術論文の執筆と学術大会での発表、学術学会誌の発行、見学会等を総合的に実施し、最近では、講演等のテーマでも「人口減少都市からの脱却」「空き家と地域マネジメント」「地球温暖化の東京への影響」「防災を含む街づくり計画」「東京の地下低地の活用と防災対策」等その時々々の社会問題に取り組んできました。また、これらの情報発信では、27年度に「創立十周年記念論文集」の発行及び学会活動報告の学会誌と学術論文集を一体化した新学会誌「地域マネジメント研究」の発行に取り組み、ISSN対応を含め内容を充実し、また、HPも大幅に拡充強化しました。

現下の我が国は、成熟社会、人口減少社会、少子高齢化社会、財政健全化目標、産業や観光等のグローバル化への対応、熊本地震や九州北部豪雨などの異常気象の発生、世界での紛争や体制の変化の大きな流れの中で、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウが世界を動き回るIT社会、情報化社会にも対応できるよう、地域マネジメントの分野でも具体的な実践と相互連携を強化することが重要です。政府でも「まち・ひと・しごと創生法」の制定や地域が主体の「一億総活躍社会」「生産性革命・人づくり革命」、都市のコンパクト化とネットワーク化、都市のスポンジ化対策等を推進しています。

当学会の今後の運営につきましても、地域や住民等がそれぞれ立ち上がり、協働し、住みよく、健康増進が期待でき、自然と共存でき、多世代の老若男女が助け合う「絆・きずな社会」の構築をめざす地域マネジメントが重要だと考えます。その際、都市再生、ストックの適正保全とその有効利用や流通の推進の工夫を含め、具体的事例や制度の研究、実践活動の支援に力を入れ、特に各委員会の活動の強化と若い研究者や事業者の協力を拡充します。

「子どもは未来と国の宝・学生さんは街の宝・働く世代は社会の宝・高齢者は地域の宝」の気持ちで、「自立と連帯」の社会の構築に貢献したいと考えます。

平成30年4月
地域マネジメント学会会長

黒川 弘

((公益財団法人) 自転車駐車場整備センター特別参与、
元三重県副知事・建設省都市局長)

